

思い出の新所沢

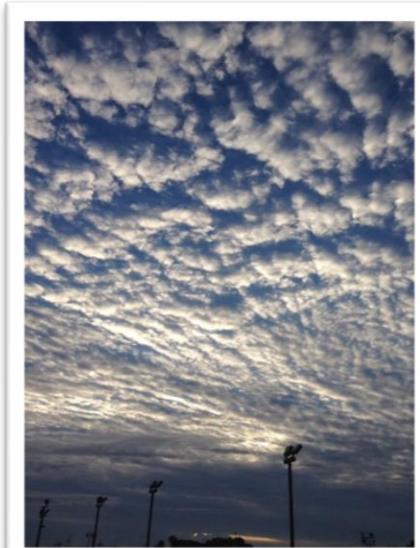
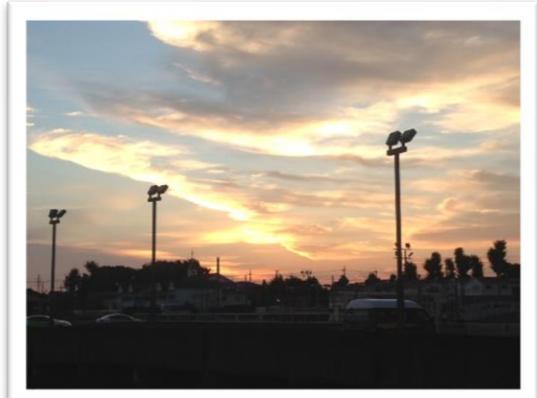
~あなたの思い出の写真とコメントを募集します~

「思い出の新所沢」をテーマに皆様から募集した写真を図書館入り口前の

踊り場、階段スペースにて展示しています。

図書館に来館された際は、ぜひご覧下さい。

普段見ている景色がまた違って見えてくるかもしれません。



編集後記

インフルエンザなどが流行する時期になりました。手洗い、うがいを徹底し、体調に充分注意して過ごしてください。図書館も引き続き感染症対策に努めてまいります。

寒い日々が続きますので図書館で本を借りて暖かい家でじっくり長編小説を読んだり、気になることを調べたりしてみてはいかがでしょうか。わからないことがあればお気軽にスタッフにお声かけください。(S・E)

読むトコ 第10巻第3号

編集・発行:所沢市立所沢図書館新所沢分館

発行日:2021年11月

〒359-1111 所沢市緑町1-8-3 ☎04-2929-1905

開館時間

火曜から金曜 9時半~21時

土日祝日 9時半~17時

休館日 毎週月曜日・月の最終水曜日

指定管理者 株式会社ヴィアックス



読むトコ



第10巻 第3号 (2021.11)

図書館まつり

2021年度の図書館まつりは11月13日(土)と14日(日)におこないます。

大人向けのイベントはリサイクル本の配布と新所沢分館スタッフの推し本の展示です。

展示はYA展示コーナーでおこないます。

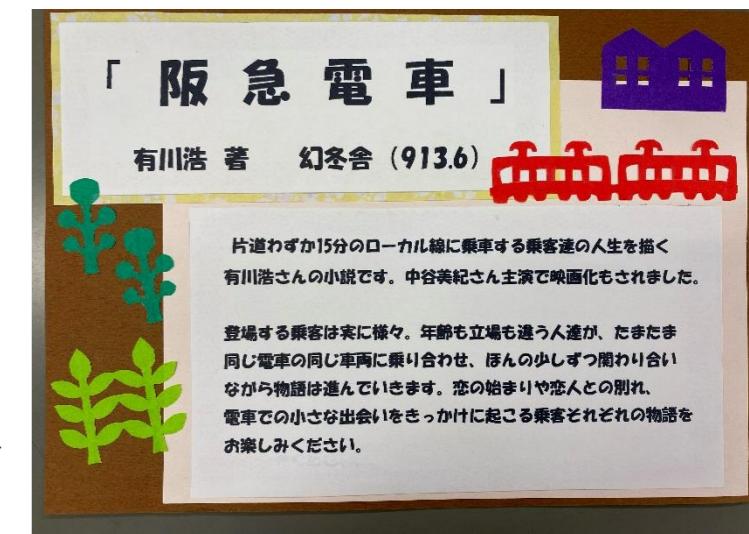
ここでは新所沢分館スタッフが作った

推し本ポップを一つ紹介します。

他のスタッフの推し本ポップも見て、

気になるものがあればぜひ本も読んでみ

て下さい。



『阪急電車』 有川浩/著 幻冬舎 (913.6/A)

新所階段 Gallery

6月から新所沢分館を出た踊り場、階段スペースにて隔月でテーマを変えて企画展示をおこなっております。10月より「思い出の新所沢」と題しまして、みなさんから募集した写真を展示しています。

所沢で撮った写真を募集時にお預かりしたコメントとともに展示しています。ぜひ見に来てください。



季節のおすすめ本紹介



『磯野家の危機』東京サザエさん学会/著 宝島社(726.101/1)



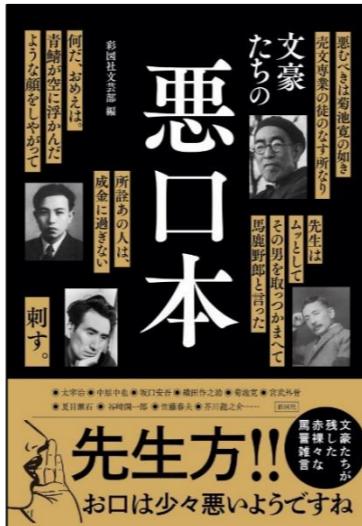
日曜夕方のお茶の間といえば、「サザエさん」。漫画「磯野家」と私たちが生きる現代をおもしろおかしく比較し、書かれています。

日常生活から娯楽など、様々な分野を取り上げられる本書は「磯野家」についてより深く知ることができます。



『文豪たちの悪口本』彩図社文芸部/編
彩図社(910.26/7')

普段、文字を操ることに長けている小説家は不満があるときや悪口を言いたいときはどのような言葉をチョイスするのか気になりませんか？そんな欲求を満たしてくれる本を紹介します。「蛤蠣（なめくじ）みたいにてらした奴で、とてもつきあえた代物ではない」さて、有名な文豪である誰かがこれまた有名な文豪にあてた言葉です。誰が誰にあてた言葉でしょう。仲が良いからこそ言える・・・なんてこともありますよね、きっと。知る人ぞ知る谷崎と佐藤春夫の恋のライバル書簡集も読み応えたっぷりです。

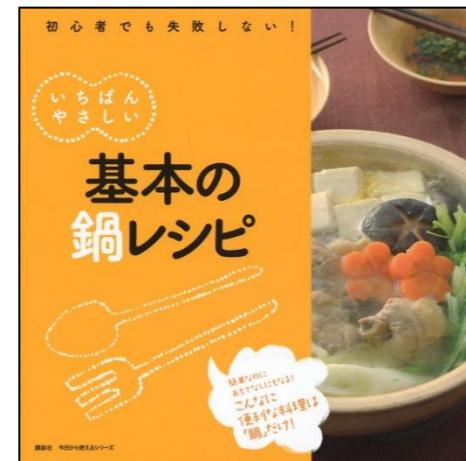


『いちばんやさしい基本の鍋レシピ』

講談社/編 講談社(596/1)

忙しくてゆっくり調理する時間がない、でも、温かいものが食べたいと思ったら、そんな時は鍋がおすすめです。材料を鍋に入れて煮るだけ、簡単調理で栄養も満点の冬の定番です。

初心者でも失敗しないようにだしの取り方、素材の切り方などの基本から、飽きがこないような味のバリエーションの工夫まで豊富な一冊です。



今年、新所沢分館は一〇周年を迎える。そこで、前号から三回にわって一〇年前の出来事を紹介しています。題して「あの頃の記憶」。第二回目のテーマは、「東日本大震災」です。

今から一〇年前の二〇一一年、

三月十一日午後二時四十六分。

この時のこととは十年経った今でも鮮明に覚えています。震災時に東北地方に住んでいた私の体験談を書かせていただきます。

当時学生で春休みということもあり、家に一人でいました。まず、異変を感じたのは音でした。今まで聞いたことのない「ゴゴゴ...」という音がしたと思ったら、とてもない衝撃に襲われました。あれは揺れているなんて生易しい表現ではなく、家に大きな何かが何度もぶつかってきているかのようない感じでした。携帯の地震警報が鳴つていなければ、何が起きているか分からぬ程でした。急いでこたつの下に潜り、そのこたつも激しく動いていました。揺れの間、外では食器が棚から落ちて割れる音、大きな物が倒れる音がずっと続いていること

を、を感じたのは音でした。今まで聞いたことのない「ゴゴゴ...」という音がしたと思ったら、とてもない衝撃に襲われました。あれは揺れているなんて生易しい表現ではなく、家に大きな何かが何度もぶつかってきているかのようない感じでした。携帯の地震警報が鳴つていなければ、何が起きているか分からぬ程でした。急いでこたつの下に潜り、そのこたつも激しく動いていました。揺れの間、外では食器が棚から落ちて割れる音、大きな物が倒れる音がずっと続いていること

あの頃の記憶

第二回 『東日本大震災』

が恐怖で仕方ありませんでした。激しい揺れは収まつても余震は続いていました。余震と言つても、震度は3か4くらいあります。とても落ち着くことはできませんでした。こたつから顔を出すと、割れた食器が散乱しており、棚の上にあるものはおろか、棚ごと倒れています。一瞬で非日常になりました。

私の住んでいた地域は停電が2日間、断水が1週間ほど続きました。

次の日、私は水を手に入れるため、自転車で外に出ています。道は亀裂や起伏が激しくなつていて、車で走れないような道もありました。時折余震が起きていたものの、水が止まっているので、調達に出ないわけにはいきませんでした。スーパー・コンビニには人が殺到しており、食べ物・飲み物はほとんど無くなっています。いくつかの店を回つてようやく水を手に入れた時、周囲からどうでもない言葉が聞こえてきました。

「原発が爆発した。」

震災から2日後、電気が復旧し、家族でテレビを見た時はまるで現実感がありませんでした。幼い頃浜の方に住んでいたことがあります。知つていてる道がテレビに映し出されたと思うたら、一瞬で波に飲まれました。地震、津波そして原発問題、不安しかありませんでした。

私の家は幸い無事だったので、避難所や仮設住宅で過ごしたことはありませんでしたが、空き地にプレハブ小屋が密集して並んでいるのを見てここで生活することがどれだけ辛いだろうと思いました。現在は住んでいる人もいなくなり、撤去された場所も多いものの、1、2年前までは、人が住んでいました。

忘れないこと、悼むことはもちろん大切です。失ったものも多くあります、様々な教訓も得たと思います。水や食料を備蓄することが当たり前のようになり、地震が起きた時の危機意識も高くなつていています。もしもの時は突然やつてきます。その時に自分や大切な人の命を守る知識と行動を身につけて欲しいと切に願っています。

(S・R)

関連本の紹介

『ゼロエフ』

古川日出男/著 講談社 (915.6/7)

『特別授業 3.11 君たちはどう生きるか』

あさのあつこ・池澤夏樹ほか/著

河出書房新社 (Y/36)

『東日本大震災・原発事故

ふくしま 10年』

福島民報社/編集 福島民報社 (H/369.31/7)